



地下駐車場で、実車を使って車いすを押す際の注意点を学んだ。右は、助言する神奈川トヨタの都丸室長（10日、東京・市ヶ谷）

全福協

講師に神奈川トヨタ・都丸氏

助手席への移乗推奨

車いす乗降の留意点解説

全国福祉輸送サービス協会（漢二美会長）は9、10の両日、東京・市ヶ谷の自動車会館でユニバーサルライバー研修（UD研修）の講師養成講座を開催、東京、埼玉、滋賀、宮崎など13都道府県からタクシー会社の社員ら24人が参加した。受講者は2日間の座学・実習、グループ討論の全課程を修了し、講師の資格を取得した。累計の講師数は907人となった。

今回、講師陣に神奈川トヨタ自動車（横浜市）の都丸室・ユニバーサルモビリティ室長が初登場。2日に講義し、ユニバーサルデザイン（UD）タクシー車両「JPN TAXI（ジャパンタクシー）」での車いす利用者の乗り降りに関し、①乗車方法②スロープの設置など準備時間③耐荷重④乗降スペースの確保について留意点を解説した。

都丸室長はまず、「スロープを出す前に、車いすのまま乗車するか、車いすから降りて移乗するのか確認してほしい」とし、「利用者の中には、少しは立って歩ける高齢者、妊婦さんや、障害があっても移乗する人もいる。同じ人でも、その日の天候や体調によって違うことがある。車のシートに乗り替えたほうが快適で安全」と指摘した。

移乗に際し、「セカンドシート（後部座席）のヒップポイント（着座位置、69センチ）に対し、『クラウンセタン』（ヒップポイント58センチ）に慣れていた高齢者から、高くて乗降しにくいとの申し出が増えてくる。解決方法として、助手席（62センチ）に案内している」と披露。「国土交通省では現在、新型コロナウイルスの感染予防のため、助手席への乗車を基本的に推奨していないが、禁止している訳ではない」とした。

スロープの組み立てなど、発車までの準備時間について「10分ほどお待ち願えますか」と具体的に伝えてほしい。「少々お待ちください」はNG。人によって少々の感覚は違う。慣れていても、おおむね10分程度はかかるだろう。20分かかる、（障害者差別解消法に基づく）合理的配慮の義務を果たしているとは言えない」と助言した。

乗車拒否問題を背景に、前向き乗車に限らず、横乗りでも認めるとした国交省の判断に対しては、「JPNタクシーはそもそも横向きに設計されておらず、確実な固定方法はない。シートベルトが装着できず、安全性が低いというリスクをお客さまに丁寧に説明することが重要。最終的な判断はお客さまになる。乗車の場合は、通常よりも丁寧に運転するように心がけてほしい」と求めた。

一方で、乗車拒否できるケースとして行政から新たな状況と運送引き受け」にも言及。「要するに『車いすが押せないと思ったら、丁寧に説明して断ってもいい』ということ。女性のドライバースロープを使った乗降で無理をし、腕の腱を切ってしまったケースがあった。男性でも、腰痛持ちや、高齢で力の弱い人、足が不自由な人の場合、断っても構わない。丁寧に説明と、代替案を出す合理的配慮が必須になる」と説いた。

いずれの対応でも、利用者への声掛けと同意を得ることをポイントに挙げ、「『私にエスコートできることはありませんか』と笑顔で話しかけてほしい。笑顔はマスクで見えないので、かなり大ききにする必要がある」と話した。

講義をしたのはほかに、全福協の佐藤雅一副会長（日立自動車交通社長）東京、専任講師の松村美枝子氏、湊敏明氏、NPO世田谷ミニキャブ区民の会の荻野陽一理事長ら。

次回は9月28、29の両日、その次は12月12、13両日の予定。年4回開く計画となっている。